

常任委員会等の活動報告

【総務常任委員会】

◇10月28日(月)～30日(水)

*行政視察

・長崎県大村市

「まちづくりについて」

・長崎県雲仙市

「定住促進対策事業及び空き家活用促進事業について」

◇12月13日(金)

*行政視察の振り返りについて

【文教福祉常任委員会】

◇11月5日(火)～7日(木)

*行政視察

・愛知県蒲郡市

「健康寿命の延伸について」

・奈良県奈良市

「小中一貫校について」

・京都府城陽市

「コミュニティ・スクールについて」

◇11月12日(火)

*所管事務調査

「学校と地域の連携について」

◇12月13日(金)

*請願審査

「給食副食費(材料費)の助成を求めることについて」

▽審査結果…不採択

◇1月22日(水)

*行政視察の振り返りについて

【産業建設常任委員会】

◇10月31日(木)～11月1日(金)

*行政視察

・岩手県八幡平市

「資源(地熱)を活用した農業・建設等の取り組みについて」

・青森県八戸市

「中山間地域の生産状況及び課題について」

・岩手県葛巻町

「新エネルギーを利用した建設・農業の振興について」

◇12月16日(月)

*所管事務調査

「観光振興の現状と課題について」

◇12月17日(火)

*開かれた議会づくりの取り組み(本会議等の録画配信の実施)について

【議会改革推進会議】

◇12月17日(火)

*開かれた議会づくりの取り組み(本会議等の録画配信の実施)について

◇1月22日(水)

*研修会「成年後見制度について」

【市政調査会】

◇1月22日(水)

*研修会「成年後見制度について」

総務常任委員会

【長崎県大村市】

大村市の人口は、本市と同程度ですが、2005年以降、年間500人ほど緩やかに増加を続けております。

増加の要因は、出生数が死亡数を上回る自然増と、近隣自治体からの転入超過による社会増でした。

近隣自治体からの転入要因は、空港や高速道路の整備による交通アクセスの利便性向上と、子育て支援を主とした移住促進施策の充実があげられます。

本市も大村市と同様、交通アクセスに恵まれており、これらの利点を生かし、将来的に近隣自治体からの転入超過に結びつけることは十分可能であると感じました。

【長崎県雲仙市】

雲仙市は、移住・定住促進の取り組みとして「定住促進対策事業及び空き家活用促進事業」を実施しております。

空き家対策では、国の社会資本整備総合交付金等の基幹事業として空き家再生等推進事業の除却事業タイプを導入してまいりました。

これは、空き家の除去に要する費用の補助として上限額50万円を交付するものです。

本市では、除却事業タイプの導入はありませんが、参考とするべき点はあると感じました。

視察を終え、両市とも移住政策を中心に施策に取り組んでおり、若い世代の移住・定住に重点を置くことは本市も同様であり、少子化対策が急務であることを再確認いたしました。



(長崎県雲仙市)

文教福祉常任委員会

【愛知県蒲郡市】

蒲郡市は、生活習慣病等の医療費が年々伸びていることから、健康課題が市の財政に影響するとして、健康化政策全庁的推進プロジェクトを設置。体重管理がメタボ予防に効果があることを市職員で検証後、「体重測定1000日チャレンジ」を市全体に普及させ、健康レベルの底上げと環境づくりを行っております。また、市内の温泉施設を活用し、1泊2日の合宿型健康体験プログラムを実施するなど、市民に対して健康づくりを意識してもらうことで、健康寿命の伸び率にもつながっております。

【奈良県奈良市】

奈良市は、平成27年から市内全小中学校で小中一貫教育を実施。子どもたちの学習意欲と自己肯定感の向上、小学6年生の中学校進学への不安の減少など効果がある反面、校区の規模によっては小学校同士の連携が必要とのことでした。また、富雄第三小中学校を訪問し、施設一体型の良さとして

学びや人のつながりなど教育の充実が図られるが、人間関係が固定化されるといふ課題があるなど、参考にするべき先進事例でありました。

【京都府城陽市】

城陽市は、市内の全小中学校でコミュニケーション・スクール制度が導入されております。学校運営協議会制度については、評議員制度を緩やかに移行しており、どのような子どもに育てたいのかを協議会で話し合うことが大切ということでありました。本市でもコミュニケーション・スクールの立ち上げを予定していることから、今後の議論の参考にしてまいります。



(京都府城陽市)

産業建設常任委員会

【若手県八幡平市】

八幡平市は、地熱利用による農業・観光振興へ取り組み、雇用などに成果を上げています。基幹産業は農業ですが、高齢化といった課題も抱えており、解決策として地熱の熱水利用を開始。農業利用も始めましたが苦しい経営が続き、現在は業者も参入しています。

農業利用は課題も多いが循環型への試行も始まり、今後は6次産業の取り組みなどが大切との感想を持ちました。

【青森県八戸市】

八戸市は、国の制度である中山間地域等直接支払制度へ積極的に取り組み、ある集落では学校との連携で自然観察会を実施。水田の持つ多面的機能などを子どもたちに理解してもらうことで、農業と郷土に対する愛着を持ってもらうことが目的であり、新しい視点で取り組む姿勢には学ぶ点があると感じました。

【若手県葛巻町】

葛巻町は、酪農と林業の町であり、処理に苦慮していた広葉樹や樹皮の利用、乳牛の排泄物を利用してのバイオマス発電、風の強さをいかした風力発電など、新エネルギーを利用した産業振興に取り組み成果を上げていました。未活用資源の再利用という発想が新エネルギーへの原点であります。

今回、地域資源の掘り起こしが地域の生きる道といった危機感にも似たものを感じ、両市町の事業は注目すべきとの感想を持ちました。



(青森県八戸市)

次のページ ちよっと一言。

編集後記ほか